

インマヌエル中目黒キリスト教会

2014年2月23日聖日礼拝

「信仰の目線～神の国を第一に」

マタイの福音書

6章 5 – 8節及び

19 – 33節

河村従彦 牧師



聖書朗読

新約聖書

マタイの福音書 6章5 – 8節及び 19 – 33節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp8~/ 第三版の聖書はp9~

- 5 また、祈るときには、偽善者たちのようであってははいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。
- 6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、

あなたに報いてくださいます。

7 また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。

8 だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。

- 19 自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。
- 20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。
- 21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。
- 22 からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいが、

23 もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。

24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということ是不可能的。

- 25 だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。
- 26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。

あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。

27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

- 29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。
- 30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。

- 31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。
- 32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。
- 33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

説教

「信仰の目線～神の国を第一に」

マタイの福音書 6章 5 – 8節及び
19 – 33節

河村従彦 牧師



序

- 1 神の国を第一にする信仰の大切さ
イエスさまが第一に求めるように言われた神の国とは？
- 2 二つのことの対比
「隠れた所」(18節)、見えない世界
「宝」(19節)、見える世界
- 3 「第一にすべき神の国」の意味

I 信仰と見える祝福

A 見える祝福をいただく人生

「主は私の羊飼。乏しいことはない」と
言えるだけのものがある

B 見える祝福への心遣い

- 1 見えるところに目が向きすぎる問題
- 2 見える世界が気遣いになる問題

C 見えない世界も知っている恵み

- 1 現実無視ではない
- 2 カバーする領域
- 3 見えない世界を知らない人生観
- 4 課題の多い現実に振り回されてしまわない可能性
- 5 信仰の一つのあり方
見えるところで下がってしまわない
逆に見えるところで自分は大丈夫だと思ってしまう

II 神さまの目線とわたしたちの信仰

A 神さまは隠れた所で働いておられる

B 神の目線に生きることを大切に

C 隠れた所で祈ることを大切に

1 神さまが見えない世界を大切にして
おられることを心にとめる

2 隠れた祈り 隠れた奉仕

3 祈りが隠されることの意味

自分にはコントロールできない神さまの
領域がある

問い……

Q 神さまの見えない世界と、わたしたちの現実は、どれくらいつながっているのですか

Q 神さまが支配しておられるという信仰は、わたしたちの現実にとどれくらい効力を持つものなのですか

III 神さまの目線とわたしたちの実際的 課題

A 集中することの誤解

1 目が健全であること

2 没交渉？

イエスさまが入って行かれる

3 天と地上と二股はやりにくい？

最終的なよりどころはどこに？

B 恵みの原則は生きている！

- 1 神さまがやっってくださいる！
- 2 実際問題も

C 地上的問題の一例

しめくりに

世で生きながら最終的なよりどころを
持っている → 神の国を第一に